

令和7年度 第2回

進路説明会



令和7年9月24日(水)

13:15~14:05

川崎市立東高津中学校 体育館


説明会次第

- 1 学校長あいさつ
- 2 今年度の進路について
 - ①今後の進路日程
 - ②進路決定までの流れ
 - ③私立高校入試について
 - ④公立高校入試について
 - ⑤その他
- 3 質疑応答

1 今後の進路日程

秋になり、委員会や部活動ではリーダーとしての役割を2年生にバトンタッチする時期が来ました。いよいよ、中学校卒業後に進むべき道を具体的に選択してゆく時期に差し掛かります。進路選択において最も大切なことは「自分の意思で進路を選択する」ということです。そうすることで目標ができ、その目標に向かって努力することができます。しかし、中学生は自分一人ですべてを選択したり決定したりできません。自分を最も支援してくれ、また人生の先輩でもある保護者の方としっかりと話し合い、相談したり意見を聴いたりしながら進路を選択・決定していきましょう。

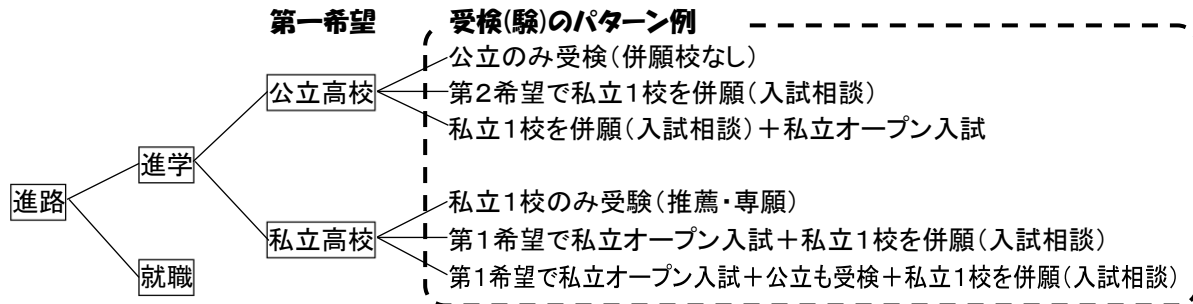
中学校では、生徒一人一人が希望の進路へ進めるように「進学指導」ではなく、将来を見据えた「進路指導」を行います。進路指導に関しては、学年職員を中心に学校全体で行います。学級担任が窓口となり、生徒や保護者の方と相談を進めていきます。わからないこと、不安に思っていることがあれば、遠慮なくご相談ください。

月	学校行事予定・主な進路日程	生徒・保護者の方の動き
10	10 前期評価・評定通知 第2回進路希望調査配付(16日〆切) 27 進路用写真撮影(学校にて) 27~31 第1回進路面談	<ul style="list-style-type: none"> ■前期評価を参考に進路先を絞り、学校説明会や見学会・体験授業、文化祭などに参加してください。 ※公立高校を希望する場合は、私立の併願校についても検討し、説明会に参加してください。 ■国立、私立高校は説明会にて学校案内や募集要項、願書や推薦書などを入手してください。 ■参加した学校説明会や前期の成績などを考え、志望校を数校に絞ってください。 ※志望校は、必ず見学してください。
11	12~14 後期中間テスト(9科) 公立高校インターネット出願練習サイト稼働 (志願者アカウント 志願者情報作成等練習) 14 第3回進路希望調査配付(27日〆切) 26 進路用評価・評定配付 ※「公立高校志願の手引き」届き次第配付	<div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>進路用評価配付後に新たな志望校の検討は時間的に難しいです。事前の準備をお願いします。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ■進路用評価・評定通知をもとに、<u>志望校を決定してください。</u>
12	1~4 第2回進路面談(進路希望の最終確認) 調査書等作成願配付(面談翌日提出) 面接練習開始 15~ 私立高等学校入試相談	<ul style="list-style-type: none"> ■私立高校の推薦や併願による受験では、多くの場合「入試相談」を実施します。入試相談は、中学校の教員が高校に相談する形式で行われます。 ■国立、私立の募集要項のコピー・調査書・推薦書等を担任に手渡してください。調査書・推薦書は、担任が預かり作成します。
1	~中旬 私立高校推薦 出願 下旬 私立高校推薦入試・発表 23~29 公立高校 web 出願 下旬~2月上旬 私立高校一般 出願	<ul style="list-style-type: none"> ■公立高校は Web 出願です。また、私立高校の多くは Web 出願です。各ご家庭でミスのないように手続きをしてください。
2	4 学年末テスト(5科) 4~6 公立高校志願変更 ~中旬 私立高校一般 入試・発表 17~20 公立高校共通選抜 学力検査/特色検査 24 公立高校共通選抜 追検査 27 公立高校共通選抜 合格発表	<ul style="list-style-type: none"> ■私立の併願校については、延納手続き(入学金などの支払いを公立高校合格発表後まで延ばす手続き)の有無や方法についてご確認ください。 ■公立・国立・私立ともに、進路決定後は期日までに速やかに入学手続きを行ってください。
3	3, 4 公立高校全日制二次募集出願 (3/10入試・3/13発表) 5, 6 公立高校定通分割選拔出願 (3/16, 17入試・3/19発表) 11 卒業証書授与式	<ul style="list-style-type: none"> ■二次募集は定員に満たない学校で実施されます。二次募集は志願時において<u>国公立高校の合格者になっていない者のみ志願資格を有します。</u> ■県立川崎高校と市立川崎高校を含む<u>昼間定時制高校</u>では定通分割選抜は行われません。

2 進路決定までの流れ

10/10 前期通知表配付

・10/10に第2回進路希望調査を配付します。前期成績を基に志願を検討している高校等を具体的に記入してください。また、公立高校を受検する場合は、私立の併願校についても検討してください。志願を検討しているすべての高校等について、学校見学や説明会などに参加してください。



10/27～10/31 第1回進路面談

第2回進路希望調査に記入された内容を基に実施します。面談では、受検(験)を検討している高校等について、具体的な話しをします。

- ・第1回進路面談の内容を踏まえ、進路用成績が前期成績より「上がった場合」「変わらなかった場合」「下がった場合」の3つのケースを想定し、進路先を絞ってください。
- ・受検(験)する予定がある学校の説明会等には必ず参加してください。国立、私立高校については、説明会等で学校案内や募集要項、願書、推薦書等を必ず入手してください。
- ・11/14に第3回進路希望調査、11/26に進路用成績を配付します。この時点で**志願校が決定**できるようにご準備ください。また、進路用成績の通知用紙で調査書記載内容の保護者確認をします。用紙に書かれた氏名や住所について、“住民票と同じ”になっているかご確認ください

12/1～12/4 第2回進路面談

最後の進路面談です。進路用成績と第3回進路希望調査の記入内容を基に、**受検(験)する高校等を確認**します。私立高校を推薦・専願・併願で受験する場合は、「入試相談」(中学校の教員が高校に相談する形式)の利用について確認します。また、志願校の希望順位や、受験日についても確認します。面談の終わりには、「調査書作成願い(兼受験計画書)」をお渡しします。面談で確認した志望校を記載してください。 ※面談後に変更する場合は、再度三者面談を実施します。

- ・調査書作成願い(兼受験計画書)の締切は**面談日の翌日**です。調査書作成願い(兼受験計画書)の提出を受け、学校では入試相談および調査書作成の準備に入ります。調査書作成願い(兼受験計画書)の提出後は、私立高校推薦・専願・併願など入試相談を利用する受験校の変更はできません。
- ・国立、私立を受験する人は、入手済みの募集要項のコピー・調査書・推薦書等を担任に手渡してください。調査書・推薦書は担任が預かり、作成します。

12/15～私立入試相談

公立・私立出願

入試

合格発表

手続き等

複数校を受験する場合は、原則として希望順位が最高位の高校等に合格した段階で、受験は終了となり、それ以下の順位の学校は「取消」または「辞退」となります。

3 私立高校入試について



1 入試の種類や基本的なきまり（再確認）

私立高校（選抜方法の種類）	内申等の基準	学力試験	他校との併願	
推薦入試 （中学校長の推薦書を提出）	○	×	原則として他校と併願できません。 合格したら必ず入学します。	
一般入試 （学力試験・面接）	単願（専願）	○	○	できない。
	併願	○	○	私立高校との併願可能な高校が増えていますが、 公立高校のみ併願可能という高校も多くあります。
	一般（オープン）	×	○	公立・私立ともに併願可能。
一般入試 （書類選考）	単願（専願）	○	×	原則として他校と併願できません。 合格したら必ず入学します。
	併願	○	×	私立高校との併願可能な高校が増えていますが、 公立高校のみ併願可能という高校も多くあります。

※私立高校の選抜方法は学校ごとに制度が異なります。私立高校の募集要項をよくお読みください。

2 出願に向けての準備

- ① 私立高校にはそれぞれの教育目標があり、日々その実現をめざして学習や生活、学校行事などを行っています。説明会で各学校の校風を知ることは、適切な学校選びのポイントになります。希望する高校の「説明会」や「個別相談」等に必ず参加して、その高校の校風や受験システムを確認してください。（説明会への参加が受験条件になっている学校もあります。）
特に、「個別相談」では、合格の可能性を直接相談できます。生徒と保護者が一緒に参加し、高校が提示する成績基準に達しているか確認してください。通知表のコピーや模試の成績表、英検等の合格証など、自分の成績を証明できるものを持参するようにしましょう。また、**相談した先生の名前**を必ずメモしておいてください。
- ② 学校説明会にて学校案内や募集要項、願書や推薦書などを入手してください。
- ③ 複数校を受験する場合、試験日が他校と重なると受験することができません。私立高校には複数の受験日を設けているところもあります。日程をよく確認の上、受験校を絞り込んでください。

3 入試相談について

私立高校の推薦、専願、併願等による受験では、多くの場合「入試相談」（中学校の教員が高校に相談します）を実施します。入試相談は高校が設定した基準をクリアすることにより、受験生がより安心して受験に臨めるようにするためのシステムです。中学校と高校との信頼関係の上に成り立っているため、入試相談終了後の変更はできません。

入試相談は12月15日より開始されます。その前に、中学校側は生徒氏名を記載した入試相談用紙を作成しなければなりません。入試相談の利用については、第2回進路面談や調査書作成願い（兼受験計画書）を通して確認させていただきます。入試相談の結果につきましては、相談終了後に調査書作成願いに記載し、コピーを担任から生徒にお渡しします。

- ① 学校内外の活動（部活動や委員会活動の実績、学校外のスポーツ団体やボランティア団体などでの活動歴）や、英検・漢検・数検などの検定等が内申点に加算される学校があります。加点にあたり、各種検定や資格等については、合格証書が必要になります。確認のため、担任にコピーを提出してください。
- ② 私立高校の入試基準において、欠席日数等が条件の1つになっている場合があります。ただし一部の私立高校では、欠席日数が基準を超えていても、医師の診断書があれば相談できる場合があります。該当する方は準備をお願いします。

※中学校では、原則として私立高校が定めた成績基準に達した生徒について入試相談を行います。

※入試相談を経て推薦・併願で出願しても可否は当日の試験結果次第、という私立高校が一部にあります。

※併願で受験する場合は、入学金や施設費等の延納の可否も事前に確認してください。

4 願書の記入（入力）

- ① 私立高校の願書は保護者の方のご指導の下、記入内容にミスがないよう慎重に作成してください。
- ② 手書きタイプの願書を作成する場合は、鉛筆等で薄く下書きをした後、保護者の方と一緒に記入ミスがないか点検してください。正確に書けたことを確認後、ボールペン等で清書してください。（修正液等は使用できません）不明点がある場合は、下書き段階で担任に願書をお見せください。※願書や受験料納付書のミシン目の中には切り離してはいけないものがありますのでご注意ください。
- ③ web 出願の場合は必要な情報を入力後、提出ボタンを押す前に保護者と生徒で点検をしてください。正しく入力されていることを確認の上、提出ボタンを押してください。

5 出願

私立高校の出願方法は web や窓口、郵送など様々です。出願日程も高校により異なります。

- ① Web 出願や郵送出願では必要な書類を郵送します。出願に必要な書類（調査書を含む）を指定された期間内に郵送してください。「消印有効」の学校と「必着」の学校があるのでご注意ください。
- ② 窓口出願の場合は、募集要項を担任が確認し、生徒と相談の上で出願日を決定します。基本的には学校に登校してから高校に向かいますが、遠方の場合は自宅から直接高校に行くことがあります。
- ③ 出願の際には、願書等と一緒に調査書や推薦書も提出します。調査書や推薦書を生徒に手渡す日程については、募集要項を担任が確認した上で、生徒と話を決めて決定します。調査書は厳封した状態でお渡ししますので絶対に開封しないでください。（開封無効です）

- ・ 窓口出願の場合の調査書、推薦書のお渡し…出願日当日朝（遠方の場合は前日帰り）
- ・ 郵送出願の場合の調査書、推薦書のお渡し…郵送予定日の前日帰り

【調査書の受け渡しについて】

生徒のみなさんは、調査書を受け取りたい日の1週間前までに、専用の用紙（廊下の進路コーナーに設置）に次の1～5を記入して担任の先生に提出してください。

- 1 学校名
- 2 出願方法
- 3 出願予定日
- 4 出願に必要な書類
- 5 クラス・番号・氏名

出願予定日が決まりましたので書類の準備をお願いします。

3年〇組〇〇番 氏名〇〇 〇〇

学校名 〇〇高等学校

出願方法 (web) ・ 郵送 ・ 窓口

出願予定日 1 月 28 日 (月)

必要な書類 (調査書) ・ (推薦書) ・ ()

- ④ 出願後、受験番号がわかったらすぐに担任の先生に報告してください。

6 入試当日

入試当日は中学校に登校しません。受験校に直接行き、終わり次第速やかに帰宅します。

※入試日に体調不良等の理由で受験できなかった場合の対応は学校によって異なります。ご心配な場合は、学校説明会等で直接ご質問ください。

7 合格発表や手続きについて

私立高校の合格発表は、web ・ 郵送 ・ 窓口など様々です。合格発表当日は、生徒自身が合否の確認を行い、ご家族の協力のもと入学手続きを行います。発表後は中学校に必ず結果報告をしてください。

- ① web 発表の場合、中学校内で合格発表を見ることが可能です。発表を中学校で見るときは、「別室で見ると」など配慮することができます。希望する場合は担任までご相談ください。
- ② 郵送発表日に中学校の授業がある場合は、中学校から帰宅後に郵便物を確認してください。
- ③ 窓口発表の場合は、担任と一緒に発表日時を確認し、当日の動きを決めていきます。
- ④ 併願受験では入学金等の延納手続きが必要な高校があります。募集要項をよくお読みいただき、期日までに必ず手続きをしてください。
- ⑤ 進路決定後は期日までに速やかに入学手続きを行ってください。手続きを行わないと入学を辞退したとみなされ、合格が取り消しになる場合があります。
- ⑥ 入試相談を経て併願受験した場合、併願校より希望順位が高い高校に合格したときは、基本的に中学校を通じて併願校に入学辞退の連絡を行います。一方で、併願校より希望順位が高い高校に合格できなかったときは併願校に必ず進学してください。公立高校の二次募集には出願できません。

8 その他

併願校の検討について

公立高校を第一希望で受験する生徒は、早めに私立の併願校の検討をしてください。併願校を受験することにより、第一希望の高校に専念することができ、生徒の不安を少なくすることができます。また、私立の併願校選びでは、「自分が入る学校」という気持ちをもつことが大切です。

私立高校には、「公立のみ併願可能である高校」と「公私ともに併願可能である高校」の2種類があります。私立高校を一般受験（オープン入試）する生徒で、併願校を検討するご家庭は注意してください。

私立併願校の選び方

「私立の併願校をどのように選べばよいかわからない」というご家庭は、前期成績を基準にして、本校の過去の進路先や通学可能圏内にある私立高校を調べてください。昭文社「受験案内」（各クラスに1冊あります）には、各校の昨年度の併願成績基準が掲載されていますので、参考にしてください。気になる学校が見つかりましたらHPを参照し、説明会等に参加してください。（今年度の成績基準はHPや学校説明会等でご確認ください。）

上記の方法でも選び方がわからない方は、中学校にご相談ください。過去の進路先の情報を基にお話しすることもできます。

進路を選ぶのは生徒自身ですので、できる限り生徒自身の手で調べることをお勧めします。ご家庭でもご指導、ご助言いただけますようお願いいたします。

特待生制度について

いくつかの私立高校には特待生制度があります。成績優秀な生徒やスポーツ・文化活動で顕著な成績を挙げた生徒に対して、授業料等の費用を軽減または免除するものです。学校によって基準や免除する金額は様々です。また、推薦だけではなく併願の生徒にも適用する学校もあります。成績や実績によって、入学金免除、施設費免除、授業料免除、授業料半額、さらにこれらの複数適用などがあり、公立高校よりも学費が安くなるケースもあります。

4 公立高校入試について

1 志願校決定について

12月の進路面談で基本的に決定してください。志願校をギリギリまで検討するご家庭も見られますが、生徒のメンタル面に影響を及ぼす場合があります。また、出願時に高等学校長が定めた書類（面接シートなど特色検査に関する書類）を提出する高校もあります。準備に時間を要するものもあるため、12月に決定して志願校合格に向けて準備することをお勧めします。

2 出願に向けての準備

神奈川県公立高等学校入学者選抜統合型インターネット出願システムで出願します。インターネット環境（スマートフォン・PC・タブレット等）および使用できるメールアドレス（生徒が持っていない場合、保護者のアドレスでも良い）を準備してください。なお、学校のGIGA端末の使用はできません。

3 出願について

① インターネット出願は各家庭での対応になります。志願に必要な情報を登録し、受検料を納付します。（クレジットカード・コンビニ払い・ペイジーで納付）その上で担任が確認し、中学校長の承認を受けます。学校によっては、その他の書類（特色検査に関する書類等）が必要な場合もあります。なお、「調査書」は中学校から送付します。

※公立定通分割選抜と、全日制・定時制(夜間以外)二次募集の出願、定時制(夜間)・通信制二次募集の出願では、各自で志願先高校に持参します。

② 調査書は神奈川県指定の様式を学校で入手・作成し、中学校から志願先の高校へ郵送します。

4 志願変更について

公立高校の共通選抜、定通分割選抜および二次募集においては、それぞれ1回だけ志願変更を行うことができます。ご希望の際には、必ず担任にお申し出ください。本人とご家庭の意思を学校が確認した後、インターネット出願システムで志願変更に必要な情報を登録し、中学校長の承認を受けます。

5 入試当日

今年度は、2/17に学力検査と特色検査、2/18,19,20に特色検査が予定されています。受検当日は中学校に登校しません。受検校に直接行き、終わり次第速やかに帰宅します。

※インフルエンザ等の感染症に罹患した場合や体調不良等のやむを得ない事情により学力検査等の全てを受検できなかった場合、希望者は追検査を受検することができます。

6 合格発表や手続きについて

今年度は2/27の9:00にwebにて合格発表があります。当日は9:00まで自宅で待機し、ご家庭で合格発表を確認します。（インターネット出願システム上で合否結果の確認をします。）

【合格の場合】

合格者は志願先が指定した時間に高等学校に行き、受検票を提示して合格通知書と入学手続きに必要な書類を受け取ります。受け取った後、中学校に登校し、合格の報告をしてください。入学金は期日までにインターネット出願システム上で納付してください。

※公立高校共通選抜では、原則として合格後の取り消しはできません。（国立高校追加合格を除く）

※受検票は入学が確定するまで大切に保管してください。また、出願サイトには入学手続き終了後までアクセスできるようにしてください。（携帯電話の機種変更などご注意ください）

【不合格の場合】

不合格であった場合は中学校に登校して結果を報告します。その後、直ちに併願校への入学手続きを行ってください。（手続きをしないと入学辞退とみなされ、合格が取り消される場合があります。）

公立のみ受検した場合は、担任と面談の上、定通分割選抜または二次募集に向けての準備をします。

7 その他

- ① 海外帰国生徒特別募集、在県外国人等特別募集、インクルーシブ特別募集などを検討されている場合は、早めにお申し出ください。また、受検方法に配慮の必要な場合や長期欠席を理由とする選抜方法を希望する場合は申請が必要となります。担任にご相談ください。
- ② 横浜市立高校の普通科は横浜市内が学区です。横浜市内に転居をするなどの理由で横浜市立高校の普通科を学区内として受検する場合は、転居を証明する書類を添えて学区確認申請する必要があります。早めに担任にお申し出ください。
- ③ 転居等の理由により県外の公立高校を受検する場合は、転居先の都道府県での志願資格を得る必要があります。早めに担任にお申し出ください。また、その場合にはご家庭で都道府県の教育委員会に連絡し、手続き等の詳細を確認する必要があります。
- ④ ②③以外にも、志願資格承認申請が必要と思われる場合は担任にご相談ください。

公立高等学校の受験に関する詳細は、7月にお渡しした「募集案内」や10月以降に配付予定の「志願の手引き」をご覧ください。

5 その他

面接について

私立推薦入試では多くの学校で面接があります。また、私立一般入試や公立の特色検査で面接を行う高校もあります。個人面接・集団面接など、面接の形態は様々です。11月以降、中学校でも面接練習を行う予定ですが、ご家庭でもぜひ面接練習を実施してください。

学費支援について

本日配付の資料に同封してあります。詳細は資料をご覧ください。支援されるのは、**授業料**が対象です。制服、教科書、修学旅行積立などは別途学費として必要です。私立高校の中には、独自の支援を用意しているところがあります。内容につきましては、高校の資料をご覧ください。

学費支援の情報は、お手元の資料、神奈川県教育委員会や文部科学省のホームページなどをご覧ください。ご確認ください。



文部科学省 HP



神奈川県教育委員会 HP

私立高校コースガイド web 版 (株式会社 創育クリーエート)

東京・神奈川など私立高校ごとにコース・学科をわかりやすく紹介しています。学べること（コース）から簡単に検索できます。私立高校選びにご活用ください。



私立高校コースガイド

參考資料

卒業生の主な進学先

公立（神奈川県立）

麻生高等学校
生田高等学校
荏田高等学校
川崎高等学校
港北高等学校
光陵高等学校
新城高等学校
大師高等学校
新羽高等学校
大和高等学校

麻生総合高等学校
生田東高等学校
神奈川工業高等学校
川崎北高等学校
川崎工科高等学校
相模原弥栄高等学校
菅高等学校
田奈高等学校
向の丘工業高等学校
百合丘高等学校

麻溝台高等学校
市ヶ尾高等学校
神奈川総合高等学校
川和高等学校
希望ヶ丘高等学校
城郷高等学校
住吉高等学校
多摩高等学校
元石川高等学校
横浜修悠館高等学校

公立（川崎市立）

川崎高等学校
高津高等学校

川崎総合科学高等学校
橘高等学校

幸高等学校

公立（横浜市立）

東高等学校

横浜サイエンスフロンティア高等学校

私立（推薦・専願・併願・一般）

青山学院高等部
英理女子学院高等学校
大森学園高等学校
関東国際高等学校
国学院高等学校
駒澤大学高等学校
品川学藝高等学校
杉並学院高等学校
専修大学附属高等学校
橘学苑高等学校
中央大学附属横浜高等学校
桐光学園高等学校
東京高等学校
トキワ松学園高等学校
日本学園高等学校
日本体育大学荏原高等学校
白鵬女子高等学校
藤沢翔陵高等学校
法政大学国際高等学校
明治大学附属中野高等学校
目黒日本大学高等学校
横浜高等学校
横浜創学館高等学校

麻布大学附属高等学校
桜美林高等学校
科学技術学園高等学校
佼成学園女子高等学校
国際基督教大学高等学校
駒場学園高等学校
品川翔英高等学校
成城学園高等学校
大東学園高等学校
玉川聖学院等学校
鶴見大学附属高等学校
東海大学附属相模高等学校
東京実業高等学校
東洋女子高等学校
日本工業大学駒場高等学校
日本大学高等学校
羽田国際高等学校
武相高等学校
法政大学第二高等学校
明星高等学校
八雲学園高等学校
横浜商科大学高等学校
横浜隼人高等学校

岩倉高等学校
大西学園高等学校
柏木学園高等学校
光明学園相模原高等学校
駒沢学園女子高等学校
相模女子大学高等部
自由ヶ丘学園高等学校
青稜高等学校
立川女子高等学校
多摩大目黒高等学校
桐蔭学園高等学校
東海大学附属高輪台高等学校
東京都市大学等々力高等学校
二松学舎大学附属高等学校
日本女子大学附属高等学校
日本大学藤沢高等学校
フェリシア高等学校
文教大学附属高等学校
朋優学院高等学校
目黒学院高等学校
山手学院高等学校
横浜清風高等学校
早稲田実業学校

特別支援学校・広域通信制・技能連携校(サポート校)・高等専修学校 など

中原支援学校
飛鳥未来高等学校
N高等学校
星槎国際高等学校
ヒューマンパースのぞみ高等学校
中央高等学院

高津支援学校
飛鳥未来きずな高等学校
鹿島学園高等学校
第一学院高等学校
四谷学院高等学校
バンタンゲームアカデミー

中央支援学校
S高等学校
クラーク記念国際高等学校
屋久島おおぞら高等学校
ルネサンス高等学校
野田鎌田学園横浜高等専修学校

公立高等学校の入学者選抜制度（共通選抜）

1 令和8年度神奈川県公立高校の入学者の募集および共通選抜の主な日程

[募集期間]	令和8年1月23日（金）から1月29日（木）まで
[志願変更期間]	令和8年2月4日（水）から6日（金）まで
[学力検査等の期日]	令和8年2月17日（火）
[特色検査の期日]	令和8年2月18日（水）、19日（木）、20日（金）
[追検査の期日]	令和8年2月24日（月）
[合格者の発表]	令和8年2月27日（金）

2 公立高等学校の入学者選抜制度

① 共通選抜の選考資料

【学習の記録】 2学年の9教科の評定合計点（45点） + 3年生進路期の9教科の評定合計点（評定）を2倍した点数（90点）の合計135点満点の数値です。

ただし教科ごとの点数を2倍まで重点化する学校があります。（3教科まで）

【学力検査】 基本的に英語・国語・数学・理科・社会の5教科の数値を使用します。教科の得点を2倍まで重点化する学校があります。（2教科まで）

各教科の満点は100点、検査時間は50分で、マークシートによる記号選択式の問題と記述式の併用となっています。

【主体的に学習に取り組む態度】

各教科における第3学年の「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、評価Aは3点、評価Bは2点、評価Cは1点に換算し、9教科の合計27点満点の数値です。

【特色検査】 実技検査または自己表現検査、面接を実施する高校があります。

② 選考の方法

第一次選考 * 募集定員の90%をS1値で選考

第二次
選考10%

【第一次選考】 第一次選考では、募集定員の90%を決定します。

【学習の記録】 + 【学力検査】 + 【特色検査】 で選考します。

* 特色検査は実施した高校のみ選考資料となります。

* 【学習の記録】 【学力検査】 の比率は各高校によって異なります。

* 【学習の記録】 と 【学力検査】 で一部の教科が重点化されることがあります。

【第二次選考】 第二次選考では、募集定員の10%を決定します。

【学力検査】 + 【主体的に取り組む態度】 + 【特色検査】 で選考します。

* 特色検査は実施した高校のみ選考資料となります。

* 【学力検査】 【主体的に取り組む態度】 の比率は各高校によって異なります。

* 【学力検査】 で一部の教科が重点化されることがあります。

② 選考の方法 つづき

【選考資料の計算方法】

○学習の記録(評定)の扱い

A = (第2学年の9教科の評定の合計) + (第3学年の9教科の評定の合計) × 2

※教科ごとの評定合計を一定の範囲(3教科まで、各2倍以内)で重点化する場合があります。

・ Aを100点満点に換算した数値を(a)とします。

○学力検査の結果の扱い

B = 学力検査(3から5教科)の各教科の得点合計

※教科ごとの得点を一定の範囲(2教科まで、各2倍以内)で重点化する場合があります。

・ Bを100点満点に換算した数値を(b)とします。

○「主体的に取り組む態度」の結果の扱い

C = 「主体的に取り組む態度」の評価 Aを3点、評価 Bを2点、評価 Cを1点として9教科の合計

・ Cを100点満点に換算した数値を(c)とします。

○特色検査の結果の扱い

D = 観点ごとの得点合計

・ Dを100点満点に換算した数値を(d)とします。

◆第1次選考…次の数値S1により募集人員の90%まで選考します。

○合計数値S1の算出式

$S1 = (a) \times f + (b) \times g$ (f, gは合計が10となるそれぞれ2以上の整数とし、各学校が定めます。)

※特色検査を実施した場合は、 $S1' = (a) \times f + (b) \times g + (d) \times i$ (iは1以上5以下の整数)

【資料の整わない者の選考】

○参考にできる資料に基づいて、第1次選考の合格者と比較して選考します。

◆第2次選考…「第1次選考」及び「資料の整わない者の選考」において合格となっていない者の中から次の数値S2により募集人員まで選考します。

○合計数値S2の算出式

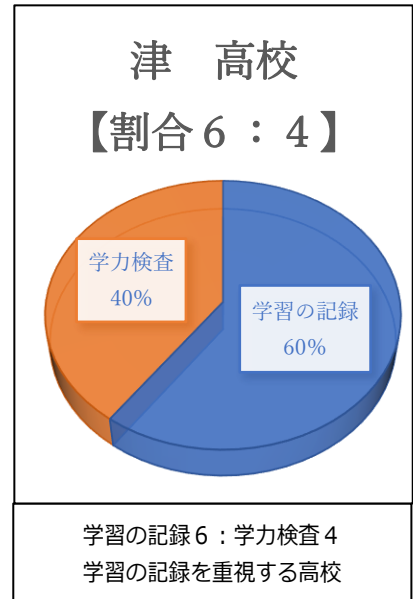
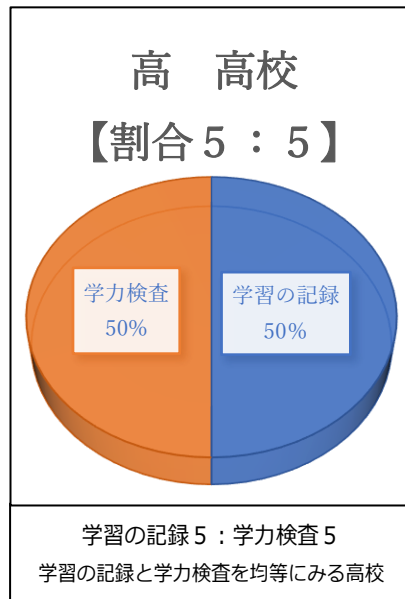
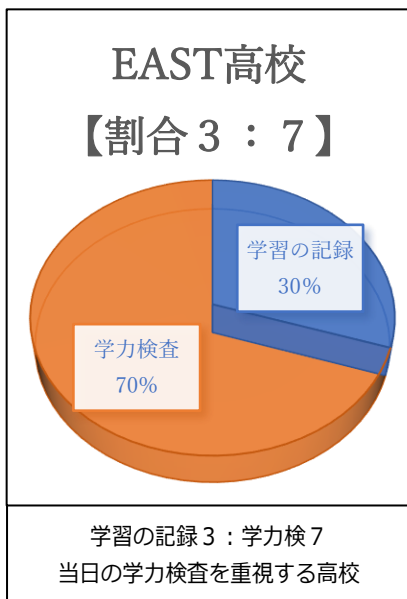
$S2 = (b) \times g + (c) \times h$ (g, hは合計が10となるそれぞれ2以上の整数とし、各学校が定めます。)

※特色検査を実施した場合は、 $S2' = (b) \times g + (c) \times h + (d) \times i'$ (i'は1以上5以下の整数)

f: 「学習の記録(評定)」の比率 g: 「学力検査」の比率
h: 「主体的に学習に取り組む態度(評価)」の比率 i: 「特色検査」の比率

③ 選考基準の例

A【学習の記録(評定)】, B【学力検査】の割合 (上のf, gの値です)



④ 選考資料の計算例

◆第1次選考

$S1 = (a) \times f + (b) \times g$ (f、gは合計が10となるそれぞれ2以上の整数とし、各学校が定めます。)

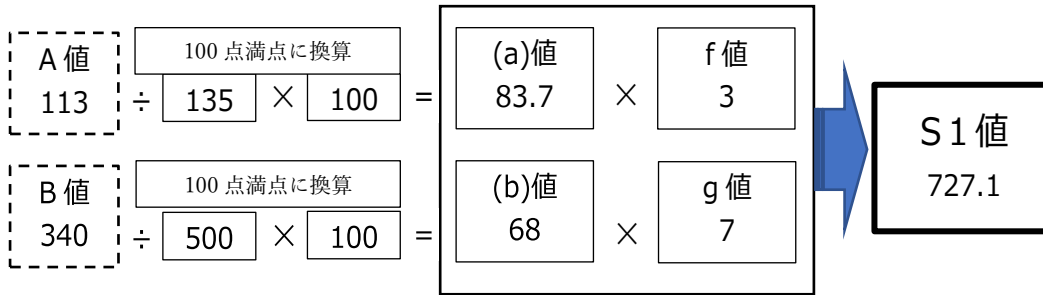
【学習の記録(評定)】

2年	国語	社会	数学	理科	英語	音楽	美術	保体	技家	合計	A 値 113
	4	3	4	5	4	4	5	3	5	37	
3年	国語	社会	数学	理科	英語	音楽	美術	保体	技家	合計	B 値 340
	5	3	4	5	4	5	5	3	4	38 × 2 = 76	

【学力検査】

国語	社会	数学	理科	英語	合計	B 値 340
75	60	70	75	60	340	

<学習の記録3：学力検査7のS1値 計算例>



◆第2次選考

$S2 = (b) \times g + (c) \times h$ (g、hは合計が10となるそれぞれ2以上の整数とし、各学校が定めます。)

【学力検査】

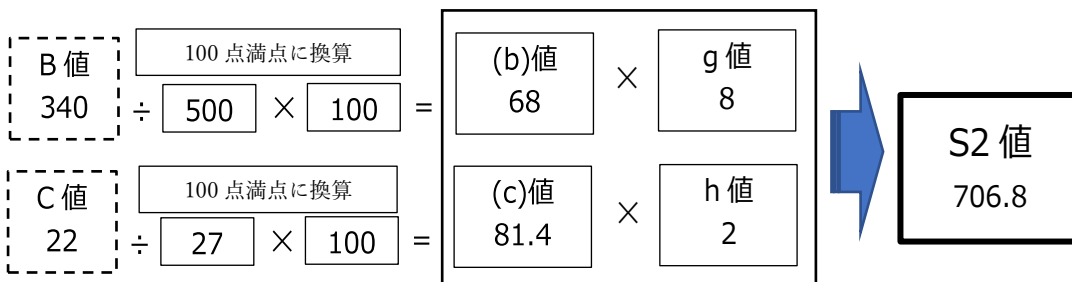
国語	社会	数学	理科	英語	合計	B 値 340
75	60	70	75	60	340	

【主体的に学習に取り組む態度】

3年	国語	社会	数学	理科	英語	音楽	美術	保体	技家	合計	C 値 22
	A	A	B	A	B	A	A	B	B		
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓		
	3	3	2	3	2	2	3	2	2	22	

※A° は A、C° は C になります。

<学力検査8：主体的に取り組む態度2のS2値 計算例>



3 公立高等学校の通学区域について

【県立および横須賀市立の高校】 県内どこからでも志願できます。

【横浜市立および川崎市立の高校】 それぞれの市内を学区としている学校・学科があります。
(ただし、学区のある学校においては、学区外からでも募集定員の一定の割合まで入学できる枠を設けています)

【横浜市立の高校】 一部の学校・学科を除き、横浜市内が学区となります。

* 学区のない学校・学科・コース

横浜商業高校の全学科および別科 横浜サイエンスフロンティア高校の理数科

戸塚高校の全日制課程普通科音楽コース 戸塚高校の定時制課程普通科

【川崎市立の高校】 普通科（全日制・定時制の課程）は川崎市内在学区となります。

※川崎市立の高等学校を受検する際、受検者と保護者の方の住所が異なる場合や市外から通学している場合、または来年の4月までに市外に転居予定の方は「学区確認申請」が必要となる場合があります。早めに担任までお知らせください。

よくある質問Q&A

① 公立や併願校を2校受験できますか？また、公立合格後、私立に進学はできますか？

公立を2校受けることはできません。(国立と公立の2校を受けることは可。)
私立の併願は基本的に1校ですが、「私立併願可」と明記している高校の場合は、オープン受験(当日の学力試験で合否が決まる)で他の高校も受験することができます。
公立は合格した場合、必ずその学校に入学することが基本です。

② 成績基準とは何ですか？

私立高校の成績基準とは、各学校が定めた受験資格のようなものです。その基準は高校によって違うので、各学校の説明会などで確認しましょう。
例：5段階評定5科17, 9科30のいずれかを満たす など

③ 推薦受験はどのようなものですか？

推薦受験は中学校長の推薦を受けて受験するものです。公立には推薦はありません。私立高校で指定した成績基準をクリアしていることが条件で、進路希望調査や面談などで担任の先生にその意思を伝えてください。その後、中学校として推薦するにふさわしいか(普段の学校生活態度)を含め、最終的に校長先生の許可をもらい、推薦受験するか決定します。推薦受験の内容は、面接のみや書類審査など高校によって違いがありますので、ご確認ください。

④ 入試相談は何校まで行えますか？

入試相談を行う高校は、原則として1校です。ただし、「書類選考の結果、入試相談が通らないことがある」「入試相談が通っても試験で不合格になることがある」など特別な場合には、もう1校入試相談を行うケースがあります。進路面談で担任にご相談ください。

⑤ 私立高校のWEB出願について教えてください。

私立高校では年々、Webでの出願が増えてきています。日にちや時間の確認が重要になる場面があります。「期限を守ること」「正しい情報を入力すること」などに気を付けましょう。入力した情報は印刷をして保管しておいてください。受験票の印刷や、写真のデータが必要になることもあります。担任の先生と相談しながら進めてください。

⑥ ～科、～コースとは何ですか？

一般的に多いのが「普通科」ですが、中学校の授業の延長と考えるとイメージができると思います。普通教科が中心のカリキュラムで幅広く進路を考えていく人に適した学科だと思います。「専門学科」は商業科・工業科・農業科・看護科・福祉科など職業系の進路に直結する専門知識や技術を学ぶことで、専門を生かした大学進学や就職に繋げることができます。英語科・国際科・理数科など普通教育をより高度に展開させる学科や、体育科・芸術科といった個人の特性を伸ばすための専門学科もあります。「総合学科」は普通教科から専門学科まで、自分の興味関心や進路希望に応じて幅広く柔軟に履修できるのが特徴です。私立では「～コース」がたくさんありますが、その内容は学校ごとに様々ですので、パンフレットや説明会などで詳しい内容を確認してください。

⑦ 特色検査とはなんですか？どのような対応をすれば良いですか？

学力試験・調査書以外に特色検査を実施する学校もあります。特色検査とは自己表現検査や面接、スポーツの実技、美術の実技など様々です。中でも多いのは自己表現検査ですが、そのほとんどは与えられたテーマに対して自分の考えを作文にします。またグループで議論したり、スピーチしたりする学校もあります。過去問題（本屋さんで売られています）を参考に実際に取り組むことが良いと思います。普段から色々なことに対して自分の意見をもち、場面に応じて表現していくことも対策になると思います。

⑧ 横浜市立の学校を受検することは可能ですか？

川崎市在住の中学生が横浜市立の高校を受検することはできますが、その枠は横浜市立の普通科の場合、定員の8%以内なので狭き門になります。

⑨ 高校の学費や補助金について教えてください。

公立は地方自治体が設置者ですので私立に比べて授業料が安く、国の就学支援金制度の適応により、授業料は実質無償化されています。私立の場合は、授業料は公立よりも高く、入学金や施設費など学校により金額差が大きいです。所得に応じて国の就学支援金や県の学費等補助制度があります。配付済みの資料（募集案内など）や神奈川県庁や川崎市役所のホームページなどにも記載されていますのでご覧ください。また、私立学校では独自に特待生制度や奨学金制度を設けている学校も多くあります。学校説明会等でご確認ください。

